

船舶事故調査報告書

平成31年3月20日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	被引浮体搭乗者負傷
発生日時	平成30年8月13日 14時46分ごろ
発生場所	広島県三原市佐木港北西方沖 佐木島灯台から真方位317° 300m付近 (概位 北緯34° 21.7′ 東経133° 06.9′)
事故の概要	プレジャーボート ^{ブリサ マリナ} brisa marina IIは、漂流中、浮体から落水していた搭乗者1人が、推進器翼に接触して負傷した。
事故調査の経過	平成30年8月17日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート brisa marina II、3.2トン
船舶番号、船舶所有者等	273-11927 広島、三陽環境管理株式会社
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定 搭乗者A
負傷者	重傷 1人（搭乗者A）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 晴れ、風 なし、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の中央期
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、搭乗者Aほか2人の搭乗者を乗せた浮体をえい航して佐木島灯台北方沖を遊走していたところ、搭乗者3人が落水したので、船外機を停止して舵中央とし、船首が北西方に向いた状態で漂流した。</p> <p>船長は、船尾方の海面に浮いていた搭乗者3人に対し、左舷船尾部のトランサムラダーから船尾デッキに昇るよう促し、操縦席付近に立ち、搭乗者3人が船外機後部から同ラダーまで泳いで移動する様子を見ていたところ、搭乗者Aが左足の痛みを訴えたので、同デッキに引き上げた。</p> <p>本船は、船長が、搭乗者Aの左足からの出血を認めたので、119番通報するとともに、広島県尾道糸崎港第6区にある三原内港客船棧橋に向かった。</p> <p>搭乗者Aは、病院へ搬送され、12日間の入院加療を要する左膝関節内に達する開放創と診断された。</p> <p>船長は、これまで、浮体の搭乗者等が、トランサムラダーを使用して海面から本船に乗り込む際、船外機を停止していれば泳いで近づいても危険はないと思っており、本事故当時、これまでと同様にしていた問題を感じなかった。</p> <p>本船の船外機は、水面下約0.7mに金属製の推進器（3枚翼）が</p>

	<p>取り付けてあり、また、船外機製造会社の取扱説明書には、プロペラが止まっている状態でも鋭利な縁で身体を切るおそれがある旨が記載されていた。</p> <p>船長及び搭乗者３人は、全員救命胴衣を着用していた。</p>
分析	<p>本船は、佐木港北西方沖で船外機を停止して漂泊中、浮体から落水していた搭乗者３人がトランサムラダーまで船尾付近を泳いで移動する際、船長が、プロペラが止まっている状態でも鋭利な縁で身体を切るおそれがあることを知らずに近づけさせたことから、船外機後部に近づいた搭乗者Ａが、海面下に推進器があることに気付かず、左膝が推進器翼と接触して負傷したものと考えられる。</p> <p>船長は、船外機製造会社の取扱説明書に記載された注意事項を把握していなかったことから、船外機を停止していれば船外機に近づいても危険はないと思っていた可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、佐木港北西方沖において船外機を停止して漂泊中、浮体から落水していた搭乗者３人がトランサムラダーまで船尾付近を泳いで移動する際、船長が、プロペラが止まっている状態でも鋭利な縁で身体を切るおそれがあることを知らずに近づけさせたため、船外機後部に近づいた搭乗者Ａが、海面下に推進器があることに気付かず、左膝が推進器翼と接触したことにより発生したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <p>船長は、船外機近くの昇降場所を使用する場合、以下の対策を講じること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船外機等の取扱説明書に記載された注意事項を把握しておくこと。 ・ 昇降場所を使用する際、船外機をチルトアップして推進器を海面上に揚げ、推進器を昇降場所の反対側に向けた状態とすること。 ・ 昇降場所を使用する者に対し、船外機を停止していても推進器に近づかないように注意喚起すること。